

仙台市生活衛生情報処理システム開発等業務委託

落札者決定基準

平成30年5月

仙台市 健康福祉局保健所 生活衛生課

1 はじめに

本書は、「仙台市生活衛生情報処理システム開発等業務委託」に係る調達に関する評価基準を取りまとめた総合評価基準書である。評価基準、技術提案書作成要領等に関する留意事項を以下に記す。

2 評価基準

2.1 欠格事項

次に該当するものは、審査を実施する前に失格とする。

- ① 期日までに必要な書類を提出しない者
- ② 技術提案書作成要領に記載している提案事項が十分に記載されていない者
- ③ 仕様書に示す本市の要求に応じた提案がなされていない者
- ④ デモンストレーション、プレゼンテーションに応じなかった者
- ⑤ 費用見積書の金額が予定価格を上回る者

2.2 入札価格と技術的要件に対する得点配分

入札価格に対する得点（以下、「価格評価点」という。）の配分と、「技術的要件に対する得点（以下、「技術提案評価点」という。）の配分の比率を 1:1 とし、価格評価点に対する配点を 700 点、技術提案評価点に対する配点を 700 点（合計 1,400 点）とする。技術提案評価点に対する配点は、さらに 200 点の操作性審査、500 点の書類審査に分けられる。

2.3 価格評価点の算出方法

価格評価点は入札書により、次のとおり算出する。ただし、予定価格を超過したものは、失格となり、落札者になることはできない。なお、小数点以下は切り捨てとする。

$$\text{価格評価点} = \left[700 \text{ 点} \times \left(\frac{\text{予定価格} - \text{入札価格}}{\text{予定価格}} \right) \right]$$

2.4 技術提案評価点の算出方法

技術提案評価点は、操作性審査（200 点）と書類審査（500 点）に区分し、複数の評価者の合議により、以下の方法で得点を算出する。

2.4.1 操作性審査

① 操作性審査の概要

操作性審査では、当該システムを利用する職員が、実際のパッケージシステムを利用して、操作性を評価する。操作性審査の概要は、次のとおりである。

- ・ 審査するのは、食品衛生業務、環境衛生業務の実務を担当する職員 18 名（食品衛生 9 名、環境衛生 9 名）とする。
- ・ 評価者となる職員 18 名が、各々最大 9 点満点で操作性の評価を行う。但し、パッケージ導入による業務効率化への影響等を鑑み、食品衛生 9 名の評価点を 2 倍する（満点 243 点）
- ・ 操作性評価点については、上記評価の合計点を満点（計 243 点）で除した値に対し、操作性審査の配点（200 点）を乗じて得点を与える。なお、小数点以下

は切り捨てとする。

$$\text{操作性評価点} = 200 \text{ 点} \times (\text{合計の得点} / \text{満点 (243 点)})$$

- ・ 提案者は、操作性審査会場に 2 台のデモンストレーション端末を持ち込み、1 名又は 2 名の説明員を配置する(事務ごとに説明員を変えることは差し支えない)。
- ・ 操作性審査は 食品衛生 120 分 (食品 60 分、検査 60 分)、環境衛生 60 分とする。
- ・ 各事務において、説明員がデモンストレーション端末の操作方法を簡単に説明したうえで (約 10 分)、操作性審査を行う職員が実際に利用し、評価を行う。操作性審査の対象は②に示すとおりである。

②操作性審査の対象

操作性審査における対象は、次のとおりである。提案者は、これらの内容に対応できるようにデモンストレーション用の環境 (デモ用データの作成を含む) を構築することが必要である。

業務 (担当課)	内容
食品衛生	○機能要件適合表No.67～90 に示す「営業許可業務」。関連帳票として示した帳票作成・出力についても含む。 ○機能要件適合表No.108～135 に示す「収去検査データ管理業務」。関連帳票として示した帳票作成・出力についても含む。 ○機能要件適合表No.139～147 に示す「統計資料作成業務」。関連帳票として示した帳票作成・出力についても含む。
環境衛生	○機能要件適合表No.212～224 に示す「美容所業務」。関連帳票として示した帳票作成・出力についても含む。 ○機能要件適合表No.278～280 に示す「簡易専用水道施設の非ビル管理移行業務」。関連帳票として示した帳票作成・出力についても含む。 ○機能要件適合表No.422～424 に示す「統計業務」。関連帳票として示した帳票作成・出力についても含む。

③操作性審査の評価基準

審査の観点には次の 3 つである。

観点	概要
機能性 (業務効率化の観点から見た機能の有効性)	・ コード入力、既定値の初期表示、入力された情報の参照による自動入力 (郵便番号による住所情報の自動入力等)、画面入力における省力化の工夫はされているか ・ 検索方法や一覧表示など、業務遂行上便利な機能が充実しているか ・ データ取り込みの方法及びエラー時の対応方法が簡単か

画面の見やすさ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1つの画面における情報量は適当か（画面スクロール含む） ・ 画面上の各エリア配置やタブ設定など使いやすさが確保されているか ・ 画面表示の色、サイズ、ボタンの配置等は直感的に見やすいか ・ イラストやグラフィックの活用により、直感的に情報の内容が理解可能となるような工夫が講じられているか
操作方法のわかりやすさ （マニュアルを見なくとも感覚的に操作方法がわかるか）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 業務ごとに必要な画面に簡単に到達できるか ・ 入力必須項目と任意項目の別は明らかか ・ 画面上における入力手順（流れ）は適当か ・ 誤入力時のエラー喚起による修正が必要な箇所・内容の特定は容易か

操作性審査は、上記3つの観点により、各評価者が4段階の評価を行う。

評価	配点	基準
A	3点	かなり優れている
B	2点	優れている
C	1点	あまり優れていない。
D	0点	優れていない。

	食品衛生	環境衛生
機能性	0～3点	0～3点
画面の見やすさ	0～3点	0～3点
操作方法のわかりやすさ	0～3点	0～3点
業務ごと合計	9	9

なお、操作性審査終了後、引き続き、技術提案書等の内容について、必要に応じ、提案者に対しヒアリングを行う場合がある。ヒアリングは技術提案書等の内容の理解を補助するためのものであり、技術提案書等に記載されていない内容の評価するものではない。

④操作性審査の留意事項

- ・ 操作性審査の詳細は次のとおりである。

(1) 実施日時等

平成30年7月下旬実施予定

日時場所の詳細は平成30年6月中を目途に通知する。

(2) 所要時間 60分（操作説明10分、審査50分）以内

※審査中に適宜、質疑応答を行う。

- (3) 説明者 説明は本業務のプロジェクトリーダー又はメンバーが担当すること。なお、他の者の同席は3名まで認める
- (4) 説明 説明する内容は、前述②で記載した内容に沿って説明する。
- (5) 使用機器等 プロジェクター、スクリーンは本市が用意する。

2.4.2 書類審査

① 技術提案評価点

- ・ 「技術提案書作成要領」の「4. 提案書作成上の留意事項」に従った提案書（様式2 機能要件適合表を含む）が提出されていること。
- ・ 別添「総合評価基準表」に記載の各項目について、個別に評価を行い、「技術的要件に対する得点」を与える。なお、評価基準表における機能要件、帳票要件について、小数点以下は切り捨てとする。

② 書類審査の留意事項

- ・ 書類審査ではプレゼンテーションを実施する。詳細は次のとおりである。
 - (1) 実施日時等
平成30年7月下旬実施予定
日時場所の詳細は平成30年6月中を目途に通知する。
 - (2) 所要時間 60分（説明40分、質疑応答20分）以内
 - (3) 説明者 説明は本業務のプロジェクトリーダーが担当すること。
なお、他の者の同席は3名まで認める
 - (4) 説明 説明する内容は、提出した提案書類に沿って説明する。
追加資料の配布は認めないが、提案書要約のスライドを用意するのは可能とする。
 - (5) 使用機器等 プロジェクター、スクリーンは本市が用意する。